

## 経済レポート

## 中国経済レポート(No. 61)

## 中国地域経済の市場としての特徴

調査部 主任研究員 細尾 忠生

## 【目次】

1. 経済的なパイの拡大 .....	p. 1
2. 地域別にみたパイの拡大 .....	p. 2
3. 将来の労働力を左右する出生率 .....	p. 3
4. 将来の生産性を左右する大学進学率 .....	p. 5
5. 高齢化にともなう新たな需要 .....	p. 6

中国を地域別にみると、(当然のことながら) 実に多様な姿をみることができる。この点について、2年前の本欄で省区市別の人口増加率、経済成長率の差異を紹介した(中国経済レポート No. 58「中国経済の多様性～地域の視点」<sup>1)</sup>)。その際、①2010年代に入り、重慶、貴州、チベット、雲南といった内陸部の経済成長率が高まっていること、②対照的に、北京、上海の成長率が大幅に鈍化していること、③経済規模の大きい北京、上海の成長ペースが鈍化しているため、中国全体の成長率も鈍化しているように見えるが、内陸部ではむしろ成長率が加速していること等を紹介した。

このように多様性のある中国の地域経済について、企業目線で市場としてとらえる場合、地域ごとにどのような特徴があるのか整理したい。

## 1. 経済的なパイの拡大

まず、地域別の動向をみるための準備として、企業が中国事業を展開するうえで、中国の経済成長の鈍化が必ずしも問題ではない、ということを確認しておきたい。

次ページの図表1では、中国の経済規模を示し企業の売上高にも連動する名目GDPについて、(1) GDP成長率を折れ線グラフで右軸に、(2) GDPの金額の増加分(GDPの前年差)を棒グラフで左軸に示している。

図表1で折れ線グラフをみると中国の成長率はたしかに鈍化しているが、棒グラフで示しているGDPの金額の増加分(=GDPの前年差)は大きくなっていることが分かる。

昨年の中国の「実質」GDP成長率は6.6%だったが、インフレを加味した「名目」GDP成長率は幾分高めめの9.7%であった。近年「名目」成長率が一番高かったのは、リーマン危機の前年にあたる2007年で22.8%もの高成長を達成した。当時のGDP(経済規模)は日本よりまだ小さく、円換算で前年の323兆円から421兆円に98兆円増えた<sup>2)</sup>。一方、2018年のGDPは日本の3倍近くにのぼり、同じく円換算で見ると前年の1,353兆円から1,480兆円に127兆円増加した。つまり、中国の成長が鈍化したといっても、経済規模が今ほど大きくなかった時代に稼いでいた分よりも、経済規模が大きくなった分だけ稼ぎも大きくなっていることは、経験的に多くの人が気付きながら、議論の際には往々にして見落とされがちではないだろうか。

ちなみに、企業にビジネス機会をもたらすのは、経済のパイ自体が拡大(経済規模が拡大)するか、産業構造が変化するかのいずれかである。たとえば、日本のGDPがおよそ500兆円程度という場合に、そのうち、自動車業の取り分・貢献分、小売業の取り分・貢献分、各種サービス業の取り分・貢献分といった産業構造はほとんど変化していない。経済のパイも産業構造も変化しない日本のような経済では、新規参加者がビジネス機会を見出すことは難しい。一方、中国では、IT産業を中心として産業構造がダイナミックに変化しているだけでなく、図表1でみたように経済のパイが毎年猛烈な勢いで拡大しており、そのことが企業に中国でのビジネス機会をもたらしている。

<sup>1</sup> [https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2017/07/china\\_170727.pdf](https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2017/07/china_170727.pdf)

<sup>2</sup> 円換算での成長率が30.3%になるのは、元建てGDP成長率22.8%と為替の元高・円安が7.5%進んだことによる合計値

図表 1. 中国の名目 GDP



## 2. 地域別にみたパイの拡大

それでは、中国の31の省市区で、経済的なパイの拡大、つまり名目GDP増加額が大きい地域はどこだろうか。次ページ図表2で名目GDPの増加額の大きい順に31省市区をランキングした<sup>3</sup>。図表2から3つの特徴を読み取ることができる。

第一に、図表2の右端の列で各省区市の経済規模の順位を示した。それをみると、経済のパイが拡大している(名目GDP増加額の大きい)省区市は、そもそも経済規模が大きい。「中国で最も伸びている地域」という場合、一定以上の経済規模を持ち、かつ成長テンポも一定ペースを維持していることが必要条件であり、単に成長率が高いだけでは企業にとり魅力的な地域とは限らない。

第二に、経済規模が重要とはいえ、規模のわりに順位が高い省区市、逆に、規模のわりに順位が低い省区市が存在する。たとえば、発展が特に目覚ましい武漢市を抱える湖北省、習近平国家主席が権力基盤を形成した福建省のほか、ハイテク産業が集積する安徽省や陝西省、近年の中国で成長率が最も高い新疆ウイグル自治区や貴州省では、経済規模が同等の他の省区市と比べパイの拡大が顕著である。

逆に、河南省はじめ、毛沢東ゆかりの湖南省、河北省、重慶市は、経済的なパイの拡大ペースが経済規模が同等の他の省区市と比べて見劣りしている。

第三に、パイの拡大ペースは地域格差が大きい。パイの拡大を示すGDPの前年差をみると、最大の広東省は7500億元と円換算でおよそ13兆円程度であるが、最小の吉林省は130億元と円換算で200億円程度にとどまる。各省区市の合計が図表2の一番下の行に示す合計値6.8兆円であり、これが図表1の棒グラフの値と符合する。つまり、中国全体では図表1のとおりパイの拡大が続くが、省区市別にみると千差万別の状況にある。本欄では日本企業の中国進出ペースが緩慢にとどまっていることをこれまでたびたび指摘してきたが、中国事業から得られる果実の大きさには、実は大きな地域差があることに注意が必要であろう。

<sup>3</sup> 図表2では単年度の不規則なデータの動きをならすために過去5年間の平均値をベースにランキングした

なお、中国の統計ゆえ、その正確性には限界があり、特に、近年は党中央が統計の正確さを重視し地方政府の統計修正が相次いでいることは周知のとおりである。図表2で※印を付した省区市で統計データに不自然な段差がみられ、おそらく大幅な統計修正があったものと推察され、その分を割り引いてみる必要がある。それでも、データによる分析は、中国経済の実態について多くのことを物語っており参考に資することは間違いない。

**図表 2. 経済規模の毎年の増加額**

		GDP前年差(億元)	経済規模順位
1	広東省	7,573	1
2	江蘇省	6,726	2
3	浙江省	4,429	4
4	湖北省	3,888	7
5	山東省	3,836	3
6	四川省	3,698	6
7	福建省	3,622	10
8	河南省	3,503	5
9	安徽省	2,989	13
10	陝西省	2,540	15
11	湖南省	2,523	8
12	北京市	2,305	12
13	上海市	2,047	11
14	河北省	1,994	9
15	江西省	1,978	16
16	遼寧省※	1,906	14
17	広西壮族自治区	1,829	18
18	雲南省	1,505	17
19	新疆ウイグル自治区	1,317	26
20	山西省	1,290	22
21	貴州省	1,266	25
22	内モンゴル自治区※	1,193	21
23	重慶市	938	17
24	甘肅省	786	27
25	黒竜江省	459	23
26	海南省	370	28
27	寧夏回族自治区	262	29
28	天津市※	260	19
29	青海省	240	30
30	チベット自治区	167	31
31	吉林省※	130	24
	合計	67,567	

(注1) 表中のデータは過去5年間の平均値

(注2) 青は経済規模の割に増加額が大きい省区市、桃色は増加額が小さい省区市を示す

(注3) ※印は統計の大幅な見直しに等によりデータに段差がみられる省区市を示す

(出所) 中国国家统计局

### 3. 将来の労働力を左右する出生率

中国の地域経済を企業の目線で市場としてみるうえで、上述のパイの拡大が重要であるが、本稿では、人口動態面のいくつかの特徴もあわせて整理したい。

特に、将来の中国の成長力の基礎になるのは、労働力と生産性であるが、これらに影響を与えるのが出生率と大学進学率である。

まず、合計特殊出生率は、一人っ子政策の影響により中国全体で 1.24 まで低下しており、省区市別では最大の山東省でも 1.75 と、人口を維持するために必要な 2.07 の水準を大きく下回る（次頁図表 3）。

もつとも、今後の人口の減り方、つまり減少ペースに着目すると、出生率が相対的に高く、人口減少ペースが緩やかにとどまることが予想される地域と、中国の中でも出生率が特に低く、今後、急速な人口減少に直面することが不可避な地域とに大別できる。

全体的な傾向として、各民族自治区では、民族的に多産化傾向があるほか中央政府の統制も比較的緩く出生率が他の省区市に比べて相対的に高い。このような事情を例外とすると、前節でパイの拡大が比較的大きい省区市としてとりあげた福建省、安徽省、貴州省、広東省の出生率が比較的高いことが注目される。

逆に、北京、上海、天津の特別3市と、吉林省、遼寧省、黒竜江省の東北3省の出生率は、中国の中でも極端に低い水準にある。

後述するとおり、特別3市は所得水準が高いほか、進学、就職等を契機に他地域からの人口流入による社会的な人口増加も期待できるなど、日本で東京都の出生率が突出して低いことと似た傾向がある。一方、東北3省では経済成長率の低下が続き、人口減少と経済低迷の負のスパイラルに陥っている。日系企業が集積する大連が位置することもあり、将来的にも他地域と比べ人口が急速に減少することになれば、労働力のひっ迫は大連の日系企業にとっても他人事ではなくなることが懸念される。

図表 3. 合計特殊出生率(2018年)

1	山東省	1.75
2	チベット自治区	1.60
3	新疆ウイグル自治区	1.59
4	広西チワン自治区	1.51
5	福建省	1.50
6	海南省	1.47
7	青海省	1.44
8	安徽省	1.41
9	貴州省	1.40
10	江西省	1.38
11	広東省	1.37
12	雲南省	1.35
13	寧夏回族自治区	1.34
14	湖南省	1.33
15	河北省	1.32
16	河南省	1.30
17	湖北省	1.26
18	甘肅省	1.25
	全国平均	1.24
19	浙江省	1.19
20	四川省	1.13
21	重慶市	1.12
22	陝西省	1.11
23	山西省	1.11
24	江蘇省	0.97
25	内蒙古自治区	0.95
26	北京市	0.91
27	上海市	0.81
28	天津市	0.77
29	吉林省	0.68
30	遼寧省	0.65
31	黒竜江省	0.62

(出所) 中国国家統計局

#### 4. 将来の生産性を左右する大学進学率

経済成長を考える際に関心の高い生産性について、経済学では、生産性を決定する要因としていくつかの要素が注目されており、とりわけ、就学年数と生産性との間に高い相関性があることが知られている<sup>4</sup>。

そこで、中国の省区市別の大学進学率をまとめたのが図表4である。それによると、北京市、上海市、天津市といった、後述する通り所得水準が高く成熟した都市で大学進学率が高い。江蘇省、湖北省、浙江省の進学率が高いことも同様の要因による。そうした中、陝西省が4位に入っていることが注目される。国家重点大学や党中央直轄の副部級大学として知られる西安交通大学をはじめ、中国を代表する理工系の伝統校が所在する教育先進地域としての面目躍如といえ、同地域における近年のハイテク産業の成長を、人材供給や研究開発といった大学の立場で支援している。

なお、チベット自治区、雲南省、貴州省といった近年成長率が高い地域の進学率は10%程度と、これら地域の高成長が生産性上昇より、労働や資本の拡大によるものであることを示唆している。

図表 4. 大学進学率(2015年)

1	北京市	43.2
2	上海市	29.7
3	天津市	23.9
4	陝西省	18.8
5	江蘇省	17.4
6	遼寧省	17.3
7	内蒙古自治区	17.1
8	寧夏回族自治区	16.7
9	湖北省	15.9
10	浙江省	15.7
11	新疆ウイグル自治区	15.3
12	山西省	14.2
13	甘肅省	14.1
14	福建省	14.0
15	黒竜江省	13.7
16	吉林省	13.6
17	山東省	13.6
18	重慶市	13.3
19	安徽省	12.6
20	青海省	12.5
21	広東省	12.4
22	湖南省	12.3
23	四川省	12.0
24	海南省	11.4
25	江西省	11.1
26	チベット自治区	11.1
27	河北省	10.7
28	雲南省	10.5
29	広西チワン自治区	9.7
30	貴州省	9.6
31	河南省	9.3

(出所) 中国国家统计局

<sup>4</sup> たとえば、経済成長論の古典である R.Barro and Sala-i-Martin(2003)，“Economic Growth”を参照。なお、報道等で取り上げられることの多い世界経済フォーラムやスイスのビジネススクール IMD などが公表する競争力ランキングは、著名な経済学者が、経済成長論の実証研究の成果に基づき、ランキングを決定する各項目を選定しており、その中でも、平均就学年数は、各国の経済成長力を決定する代表的な指標とされている。

## 5. 高齢化にともなう新たな需要

最後に、中国の高齢化の状況について、所得水準と合わせてまとめたのが図表5である。

高齢化の進展を示す老年人口比率（全人口に占める65歳以上の人口の割合）をみると、重慶市、四川省、遼寧省で高く、高齢化がかなりのレベルに進展していることが分かる。これら各省に続くのが、上海市、江蘇省、山東省、浙江省、湖北省といった経済先進地域であり、このほか北京市、天津市も老年人口比率で中位に位置している。

図表5の右側に示す通り、これらの経済先進地域は所得水準が高い。人口の高齢化は、経済の供給サイドからみると成長を圧迫する要因だが、需要サイドから見れば、所得水準の高い豊かな地域での高齢化の進行は、介護サービスをはじめ高齢者向けの新たなサービスへの需要が期待できことを示し、日本の介護サービス大手による中国進出事例がこの2、3年で相次いでいる。

一人っ子政策を長きにわたり続けたため、中国では高齢化が急速なスピードで進展することになるが、一口に高齢化といっても、地域ごとにその中身が異なることに注意が必要であろう。

以上、本稿でみたとおり、経済的なパイの拡大を軸にしつつ、人口動態の様々な指標も補完的にみることで、日本企業にとり、自社の事業領域、事業分野と、各地域の発展度合いを今一度見つめ直し、長期的な視野で事業戦略を構築していくことが望まれる。

図表5. 高齢化の進展と所得水準

老年人口比率(2015年)		%	一人当たりGDP(2017年)				
			元	円	ドル		
1	重慶市	13	1	北京市	128,994	2,192,900	19,935
2	四川省	13	2	上海市	126,634	2,152,781	19,571
3	遼寧省	13	3	天津市	118,944	2,022,041	18,382
4	上海市	13	4	江蘇省	107,150	1,821,550	16,560
5	江蘇省	13	5	浙江省	92,057	1,564,969	14,227
6	山東省	12	6	福建省	82,677	1,405,509	12,777
7	浙江省	11	7	広東省	80,932	1,375,844	12,508
8	湖北省	11	8	山東省	72,807	1,237,721	11,252
9	湖南省	11	9	内モンゴル自治区	63,764	1,083,988	9,854
10	安徽省	11	10	湖北省	60,199	1,023,383	9,303
11	吉林省	11	11	重慶市	63,442	1,078,514	9,805
12	黒竜江省	11	12	陝西省	57,266	973,527	8,850
13	北京市	11	13	吉林省	54,838	932,246	8,475
14	陝西省	10	14	遼寧省	53,527	909,953	8,272
15	天津市	10	15	寧夏回族自治区	50,765	863,005	7,846
16	河北省	10	16	湖南省	49,558	842,486	7,659
17	河南省	10	17	海南省	48,430	823,310	7,485
18	広西チワン自治区	10	18	河南省	46,674	793,458	7,213
19	内モンゴル自治区	10	19	河北省	45,387	771,579	7,014
20	貴州省	9	20	新疆ウイグル自治区	44,941	763,997	6,945
21	甘肅省	9	21	四川省	44,651	759,072	6,901
22	山西省	9	22	青海省	44,047	748,799	6,807
23	江西省	9	23	江西省	43,424	738,214	6,711
24	福建省	9	24	安徽省	43,401	737,823	6,707
25	海南省	8	25	山西省	42,060	715,020	6,500
26	雲南省	8	26	黒竜江省	41,916	712,572	6,478
27	広東省	7	27	チベット自治区	39,267	667,539	6,069
28	寧夏回族自治区	7	28	広西チワン自治区	38,102	647,734	5,888
29	新疆ウイグル自治区	7	29	貴州省	37,956	645,253	5,866
30	青海省	7	30	雲南省	34,221	581,757	5,289
31	チベット自治区	6	31	甘肅省	28,497	484,441	4,404

(出所) 中国国家统计局

以上

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。